

低コストで効率的な施業の推進

地域林政課題の解決に向けた取組

十勝東部森林管理署

十勝管内の一般民有林における人工林の面積割合は約5割に達し、人工林の成長過程で必要となる「間伐」作業を、安全にかついかに低コストで効率的に進めていくことが重要な課題となっています。

十勝総合振興局との取組

平成25年度から十勝管内の3つの森林管理署・支署と十勝総合振興局とで連携して「十勝地域林政連絡会議」を立ち上げ、地域課題の解決に向けた取り組みを行っています。

当署では、国有林で積極的に取り組んでいる「列状間伐」の普及と推進に向けた取り組みを平成26年度から進めています。

十勝管内の一般民有林においては、優良木の生産や

風倒被害への懸念から定性間伐が多い現状にあり、列状間伐の安全で低コストな伐採作業に資するメリットが知られていませんでした。



振興局と列状間伐の現地検討

そこで、「十勝地域林政連絡会議」の中で現地検討会を開催し、列状間伐のメリットについて情報共有を図り、その翌年には振興局主催の現地研修会で一般民有林所有者等を対象に普

及、啓発を図りました。

実際に、豊頃町の道有林において初めて2回目列状間伐が行われた箇所では、間伐直後である平成27年10月の暴風雨でも、被害は見られませんでした。

このほか更なる低コストで効率的な施業の取組を紹介してほしいとの振興局からの要望を踏まえ、27年度からはコンテナ苗植栽箇所及び丈夫かつ安価になるように工夫した森林作業道の作設箇所現地検討会を開催し、意見交換、情報発信を行っています。

平成28年度には国有林が所在していない池田町において、町が町有林でコンテナ苗を試験植栽する際に、技術的な支援として、コンテナ苗の特徴と植付器具の扱い方を説明しました。



コンテナ苗の試験植栽支援

今年度の取組

昨年度は立て続けに来襲した台風被害のため、計画していた現地検討会を開催できませんでした。

今年度は伐採・造林事業の一括発注により、伐採で使用した大型機械を造林事業でも活用して、造林経費削減、作業効率向上を図る「一貫作業システム」の現地検討会を開催し、理解と



融雪と台風通過後の森林作業道

普及に努めています。引き続き、十勝総合振興局と連携し「列状間伐」、「丈夫で安価な森林作業道」の一般民有林への普及を目指した情報発信についても取り組んでいきたいと考えています。

